

指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
総合調整・共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の運営を通じた文化芸術の振興、多様化する都民および来館者のニーズに適応した高い品質のサービス提供、文化プログラムの展開に向けた文化事業の実施などにおいて、適正かつ効率的な運営を行う能力とノウハウを有している。 ○長年に渡って都立文化施設を運営してきた高レベルの実績やネットワークをもとに、継続的・安定的かつ、発展的な活動が期待できる。 ○蓄積されたノウハウと豊富な専門人材を最大限活用し、施設の効率的な運営が期待できる。 ○都の政策に積極的に連動して事業展開するとともに、それを支える人材の育成についても公共的な役割意識の徹底を図るなど、都の文化施設運営の実施機関に相応しい方針等が示されている。 ○東京都との緊密・積極的な連携の下、複数施設の運営について、総合的な視点での計画・実施が期待できる。 ○6館の他、アーツカウンシル、庭園美術館などを運営する、他に例のないスケールメリットを活かし、企画・運営及び財務上の連携等による効率的運営の実現可能性が高い。 ○複数のジャンルの違う文化芸術拠点の連携を図り、相乗効果を生むなど、指定期間における提案が評価できる内容となっており、高齢化社会等、様々な社会的要件を視野に入れ、長期的な継続可能性・発展可能性をもつ計画である。 ○文化芸術の振興、都民および来館者のニーズに適応したサービスの提供、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた文化事業の実施等において、適正かつ効率的な運営を行う能力及びノウハウを有していると評価できる。 ○定量評価と定性評価のバランスに留意し、多層的な評価を取り入れている。各館のみならず、財団全体としての運営戦略や事業連携についても、改善に向けた推進体制が講じられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人材育成について、多様な文化資源を活かし、新機軸を打ち出す専門性と創造性を高めていくことが肝要であり、財団内に蓄積してきた経験知を次代に継承するべく努めてほしい。 ○指定期間における都政の動向および外部環境の変化に柔軟に対応しつつ、都の文化行政および他分野の政策への貢献・連携を図っていただきたい。

指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
東京都江戸東京博物館	<ul style="list-style-type: none"> ○館の有する諸資源（人・資料等）を最大限活用し、魅力ある博物館づくりに努めている。館の立地・特性・ノウハウなどを活かし、地域等との連携のみならず、多摩や島しょ部にも目配りがされている。 ○収蔵品の収集、研究、教育・普及など博物館の本来的な使命を十分に果たすことができる組織、専門性、人員を備えている。 ○江戸東京博物館の今までの実績を継承した事業計画書が策定されており、安定的な管理や事業実施が期待できる。 ○開館以来蓄積してきた活動実績を継承・発展させる事業計画が提示されている。他の博物館、地域との連携の他、国外の博物館との交流・連携への取組みも示されている。 ○来場者の立場に立ったホスピタリティの高いサービスが検討されている。 ○国際的な発信力やインバウンドの観点から、2020年を機として最も「東京」の魅力、独自性を発揮できる潜在力を有する施設であり、そのような自覚に基づく博物館運営が提案されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○首都東京の名実ともに中核的な文化施設であることから、ホスピタリティの充実に不断に取り組むこと。また、本館・分館ともに館内だけでなく、館に到るアクセスの改善など、館周辺の環境整備にも努めること。 ○多くのコレクションの恒久的保管、調査研究を担う学芸職員の経験・スキルの継承、人材育成プロセスの構築に努めてほしい。
東京都写真美術館	<ul style="list-style-type: none"> ○来館者層の多様化に向けての取組を強化をするなど、より広く開かれた館運営を目指している。 ○写真・映像の専門美術館として長年蓄積してきた経験を活かし、「写真・映像文化の発信拠点」として恵比寿のまちのイメージ形成を図り、地域連携のほか、国際的なネットワーク形成にも資する事業展開が図れる。 ○運営・経営に対するイノベーションを行ってきた経験とノウハウを継承しつつ、新たな中長期的ミッションと運営体制、事業計画、事業を支える人材配置、育成の方向性が具体的に示されている。 ○首都東京を代表する専門美術館として認知されるようになってきただけでなく、世界的にも価値のある美術館として知られるようになってきている。その礎を長年に渡って築いてきた功績は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○来場者視線に立ったサービスの向上と、発信力強化に尽力してきた成果を次代に継承し、今後も独自性の高い、開かれた美術館運営がなされることを期待したい。 ○事業規模の拡大に見合う人員を確保できるよう、職員の増員に向けた努力をしてほしい。 ○事業規模の拡大にあたり、特に国際的なネットワーク形成と次世代への専門性の継承に努められたい。

指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
東京都現代美術館	<ul style="list-style-type: none"> ○コレクションの管理・活用、多様な企画展の実施、教育普及活動の積極的な展開のほか、地域との協力・連携にも注力しており、こうした実績や運営経験を踏まえ、今後の展望および事業計画が提案されている。 ○現代美術に関わる専門的美術館であり、既にわが国の中核的な役割を担う施設として広く認知されている。これまでの成長を支えてきた蓄積を今後さらに充実させると共に、作品を収蔵・展示する美術館から“創造発信拠点”としての美術館に進化していくことが期待できる。 ○現代美術館としての機能をさらに高めていくために必要な人材の獲得のほか、専門的な人材の育成が提案されている。 ○様々な来館者への対応やホスピタリティの提案により、リピーター率の向上が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京に住む子供から大人までが一人でも多く、平易に現代美術と触れ合う機会をこれまで以上に得ることができるように努められることを期待したい。 ○東京都の現代美術館としての国際的なブランド形成、外国人来館者誘致の取組をさらに推進してほしい。
東京都美術館	<ul style="list-style-type: none"> ○都立の美術館の代表施設として、伝統や歴史を踏まえつつ、新たな取組にも前向きに対応するという観点から、基本方針・事業・運営体制などの考え方がバランスよく整理されている。 ○長年の館運営で培われたノウハウと内外機関との信頼関係に基づき、東京都の美術館として、堅実な運営が期待できる。 ○大型特別展ラインナップのほか、新規のアート・コミュニケーション事業など特色ある事業を展開するなど、よく整理された事業計画である。 ○上野を中心とする周辺地域から、海外を含む広域連携への視点、旧蔵コレクションの活用等、計画の方向性が具体的に示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○上野公園の9つの文化施設及び周辺地域との連携や、教育・研究機関とのネットワーク形成、他の都立文化施設との協働をさらに推進・強化してほしい。 ○今後の人口減社会を見据え、若年層の開拓や外国人の来館促進など、持続可能な館運営に向けた早期の取組を進めてほしい。 ○東京都美術館は、美術館としての価値をさらに充実させる過渡期にあるが、開館以来培ってきた価値を新たなものに転換するだけでなく、新たな価値の獲得を積極的に進めてもらいたい。

指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
東京文化会館	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統と歴史のある館として、これまでの実績を尊重・発展させるとともに、社会状況の変化等を踏まえた新たな事業にも積極的に取り組もうとしている。館運営の安定性・堅実性・柔軟性などが期待できる。 ○「鑑賞する」場から、人材育成や教育普及、体験・創造の拠点としての意識を持ち、子供・障害者・高齢者等も視野に入れた事業計画を提案している。 ○参加型プログラムの拡充、社会的課題への対応などに踏み込む姿勢や行政の一翼を担う覚悟がみられる。 ○現在の社会の課題に対し、音楽が果たせることを積極的に取り込み、実施している。都内を含め、他の地域に対しても積極的に対応する姿勢がうかがえる。 ○状況に応じ、夜間開館を柔軟に行うなど、サービス充実の視点が明確になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定期間において、職員の専門性の向上等の人材育成や雇用を進め、提案どおりの運営、多様な事業展開、他機関との連携などが可能になるよう更なる努力をしてほしい。 ○子供に向けたワークショップは、音楽のワークショップの概念を超える内容のものであり、東京都内だけではなく全国に展開してほしい。 ○コンサート事業は今以上に新しい音楽概念を持つ企画を提出して、ダイナミックに実施し、これからの公共音楽堂としてのリーダー的な役割を発揮できるように期待したい。
東京芸術劇場	<ul style="list-style-type: none"> ○東京芸術劇場が期待される役割について、十分に認識しているとともに、提案内容も体系的・網羅的に整理されているなど、全般的に運営面で確実性・堅実性がある。 ○館のリニューアルを経て、存在感をいっそう高めてきたが、今までの実績を踏まえ、2020年を好機と捉えた提案がされており、実現性も高い。 ○芸術監督制度の有効な活用と運営、豊かな国際性も含めたクオリティの高い事業展開を提案している。 ○池袋の文化拠点化、地域との連携を志向するとともに、国内外のネットワーク強化も志向している。 ○音楽事業や舞台芸術事業の充実、さらには人材育成及び教育普及活動の充実が提案されているなど、創造拠点としての劇場・ホールであるという意識が具体的な事業計画に反映されている。他にも、教育普及活動や人材育成事業についても、複合文化施設としての特性が活かされており、東京文化会館との技術連携も視野に入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京都の公共劇場を牽引する役割を担い、国内外の文化機関等との連携およびネットワーク形成に今後も注力してほしい。 ○芸術監督を中核とした、専門性の高い集団としての業務の質を維持するため、人材育成に引き続き努めてほしい。